

# 双塔



新潟教会 2014年4月

No.311

## 憐れみを下さい

助任司祭 ナジ・エデルベルトウス

今回の四旬節は3月から4月にまたがって長い四旬節だと感じる方もいると思います。しかし、今年の復活祭は桜の満開の時期に当たると考えると、神の慈しみを思い出し感謝の気持ちを起こすに違いありません。今月、神の慈しみの主日に、この祝日を大切にされたヨハネ・パウロ2世は聖人の列に加えられる予定ですね。それを思うと、神様はご自分の慈しみと憐れみを人間に告げるため、多くの人を模範として遣わされました。

3月6日、教皇フランシスコは、神の憐れみを示す模範になるもう一人の司祭の事を紹介されました。四旬節を迎えてローマ教区司祭達の前で、彼を含めて多くの信者の告白を聴いた一人の聖体会司祭の事を語られました。教皇様がブエノスアイレスで司教総代理をしていた頃、その司祭が亡くなられたという知らせを受けて、教皇様も祈りに行く決心をされました。しかし、驚いた事に、行ってみたら棺の周りに花が一輪も飾られていなかったのです。ブエノスアイレス中の司祭の告白を聴き、すぐれた聴罪司祭としてあれほど有名な方なのに、花のない寂しそうな所に置かれていると思った教皇様は、花屋に花を買いに行くことにしました。花を買ってそれを飾ろうとした時、彼は亡くなられた司祭の手にあったロザリオの十字架を見て、自分の物にしたい気持ちが湧き出しました。花を飾ってから、亡くなられた司祭の胸に置かれた十字架を取りながら、「あなたの憐れみの心を私に半分下さい」と祈られました。その十字架は教皇選挙の前や、また、今でも胸ポケットに入れてあります。

今年の四旬節に、ローマ教区の信者は、憐れみに満たされた司祭達に沢山出会うと思います。聖霊は色々な人によって神の憐れみの強さを示して下さい。3月の十字架の道行の祈りに、信者でない方が2人参加していました。祈りが終わってから静かに帰られますが、聖霊は「主よ、信仰の弱い私達を助けてください」と叫ぶ私達を応援するために、この人たちを来させているのではないかと時々思います。

弱い信仰というと、イエス様に癒しを求める男（マルコ9・24）やトマスの言葉を思い出すでしょう。四旬節の残りの日々を大切に、多くの人の救いを含めて、自分にも憐れみの心を持つように願いながら、今年の春、復活祭を迎えましょう。

